

イネ苗立枯細菌病に対するカスガマイシン粒剤処理は どの育苗用培土でも高い効果を示す

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

1 部門名

水稲—水稲—病害虫防除

2 担当者

清田裕司

3 要旨

2012年に県内で広く普及していた人工育苗用培土が生産中止となり、それに伴い培土の切り替えが行われた。

また、同年に中通り地方で細菌病による立枯れ症状が前年度に比較して多く発生していた。

これらのことから、現在流通している多数の水稲育苗用培土の中から特に本県において流通量の多い培土について、苗立枯細菌病の発病度に差があるのか検証を行った。

慣行栽培における防除法であるカスガマイシン粒剤(カスミン粒剤)を処理することにより、組成の異なる育苗用培土(表1)を用いて行った本試験では、無処理区における発病度が高く甚発生の条件下での試験であったにもかかわらず、無処理区に対するカスガマイシン粒剤処理区の効果(図1)では、各育苗用培土とも高い防除効果が認められており、育苗用培土による差はない。

表1 各種育苗培土の成分量

種類	PH調整	1箱当たりの成分量(g)		
		N	P	K
くみあい 粒状培土	4.5~5.5	1.68	3.64	1.40
くみあい ふくしまの米 専用培土	4.5~5.5	1.68	3.64	1.40
くみあい 三研中苗用培土	5前後	2.52	3.36	1.68
くみあい 三研水稲用培土	5前後	1.96	3.36	1.68
ソーラマット	5前後	2.66	2.93	2.05
水稲用培土 苗みどり	4.5~5.5	1.60	4.00	2.00
軽量 水稲用培土 か〜るくん	5±0.5	2.20	4.20	2.20

※ソーラマットの覆土用培土には、くみあい粒状培土を用いた。

※PH及び1箱当たりの成分量の数値はメーカー保証数値

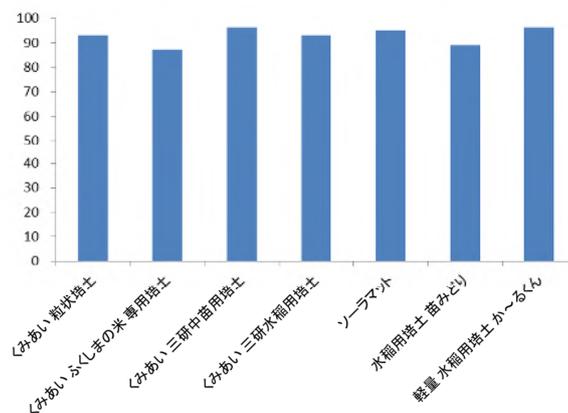


図1 各種育苗培土におけるカスガマイシン粒剤処理の無処理に対する防除値

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～26年度
- (2) 研究課題名 水稲・畑作物における病害虫の効率的防除技術開発
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料